

モスクワ市立教育大学

外国語大学 東洋語学部 日本語学科

2011 年度 機関報告

小熊 利江
rieoguma@hotmail.com

1. 機関概要

モスクワ市立教育大学 (University) は、6つの大学 (Institute) と大学院からなる。外国語大学は、6つの大学のうちの1つである。モスクワ市立教育大学全体で 22 学部、36 専攻 (うち教育専攻 23) あり、学部学生数は約 18,000 人、大学院生数は約 1,000 人である。

本学は 2011 年までロシアの伝統的な教育制度である 5 年制大学だったが、2011 年 9 月より新教育制度を採用し、4 年制大学となった。2011 年度の 1 年生から新制度に移行している。

ロシア語名称： Московский городской педагогический университет (МГПУ)
Институт иностранных языков
住所： Малый Казенный пер., д. 5Б, Москва, 105064, ロシア
電話： +7-495-607-24-21, +7-925-045-22-26
ウェブサイト： <http://www.mgpu.ru/>

2. 沿革

- 1995 年 モスクワ市立教育大学 創立
- 2007 年 日本語学科 設立
2007 年にモスクワ市立の初中等教育 (小中高校一貫教育機関シュコーラ) において、外国語選択科目に日本語が導入されたことにより日本語教員養成が必要となった。
- 2008 年 日露青年交流センター派遣の日本語教師の受け入れ開始
- 2009 年 筑波大学と交流協定締結
筑波大学の日本語教育専攻の学部生による大学訪問プログラムの受け入れ開始
- 2010 年 国際教養大学と交流協定締結
国際教養大学からの日本語教育実習生の受け入れ開始
筑波大学からの日本語教育実習生の受け入れ開始、筑波大学へ留学開始
- 2011 年 国際教養大学へ留学開始
- 2012 年夏 第 1 期生卒業

3. 学科概要

- ・日本語学科は、中国語学科とともに、東洋語学部を形成している。
- ・旧教育制度下の2～5年生は、日本語・日本語教育・通訳翻訳学専攻であり、新教育制度下の1年生は東洋学・言語学専攻である。
- ・2007年9月に設立された日本語学科は、2012年8月に初めて卒業生を輩出した。

4. 教員

日本語学科に所属する教員は、以下の11人である。このほか他大学からも教師が出講、論文指導などを行っている。

教授： 1人

准教授： 4人（うち日本語母語話者1人）

上級講師： 5人（うち日露青年交流センターによる派遣1人）

助教： 1人

5. 学生数

1年生： 言語学専攻 20人 [2クラス]・東洋学専攻 22人 [2クラス]

2年生： 35人 [3クラス]

3年生： 27人 [3クラス]

4年生： 29人 [3クラス]

5年生： 11人 [1クラス]

合計 144人（休学・留学中の学生含む）

6. カリキュラム

- ・新年度は9月1日に授業開始。学期は Semester 制で、前期 18 週間、後期 16 週間（新制度下の1年生は後期も 18 週間）の授業がある。前期試験期間は1月中旬から下旬、後期試験期間は6月上旬から中旬である。（1年生の後期試験期間は6月下旬から7月上旬）
- ・教育学関係の専門科目は、ロシア語による講義形式で行われる。
- ・言語教育は、1クラス 10人程度という少人数で授業が行われる。

表1 各学年の受講科目と授業内容

学年		科目・授業内容
1年生	言語学専攻 [2クラス]	日本語、漢字の歴史と理論、言語学
	東洋学専攻 [2クラス]	日本語、漢字の歴史と理論、言語学
2年生 [3クラス]		日本語、日本の歴史と文化、日本語の音声学、言語学の歴史
3年生 [3クラス]		日本語、日本の文学、日本語の語彙学、日本語の歴史
4年生 [3クラス]		日本語、日本の文法理論
5年生 [1クラス]		日本語、日本語方言・文体学、比較言語学、異文化間コミュニケーション

- ・日本語学科の学生は日本語のほか、2年次から外国語科目として英語を学習する。
- ・日本語学関係の科目の授業数は週6～8コマである。各学年における日本語関連科目は、上記の表1のとおりである。
- ・東洋学専攻1年生を除く全クラスに、日本語母語話者教員による日本語の授業が週1コマ以上入るようデザインされている。
- ・4年次に、初中等教育の教員免許取得のため8週間（前期4週間および後期4週間）の日本語教育実習を行う。
- ・3年次、4年次、5年次の年度末に日本語で研究論文を執筆し提出する。5年生には、それが卒業論文となる。新制度の下では、1年次から毎年論文を執筆するようにカリキュラムが変更された。

7. 日本への留学状況（2011年度）

日本への留学希望者は多いものの、多くの学生にとって私費留学は難しい。交流協定大学との交換留学、国際交流基金や日露青年交流センターなど公的機関による留学、文部科学省の日本語日本文化研修留学制度などに期待している。学生の日本留学の状況を以下に示す。

- ・文部科学省による日本語日本文化研修留学（2人、1年間、大阪大学・奈良教育大学）
- ・協定校である筑波大学への留学（5人、3か月間）
- ・協定校である国際教養大学への留学（1人、2週間）
- ・国際交流基金による日本語研修留学（1人、6週間、関西国際センター）
- ・日露青年交流センターによる日本語履修大学生招聘事業に参加（1人、1週間）
- ・ロシア人教員が国際交流基金の日本語教師研修に参加（1人、2か月）

また3年生以降になると、夏季休暇中に日本の日本語学校で学んだり、日本国内を旅行したりする学生も見られる。

8. 日本からの学生・教員の受け入れ状況（2011年度）

- ・筑波大学の日本語教育専攻の学部生と教員による大学訪問プログラムの受け入れ（17人、1週間）
- ・筑波大学からの日本語教育実習生の受け入れ（1人、1年間）
- ・筑波大学からのロシア語学習学部生の受け入れ（1人、1年間）
- ・筑波大学からの社会学研究大学院生の受け入れ（1人、1年間）
- ・国際教養大学大学院からの日本語教育実習生の受け入れ（2人、2週間）
- ・国際交流基金の海外日本語教育実習生派遣プログラムの受け入れ（筑波大学学部生2人、2週間）
- ・日露青年交流センターの若手研究者等フェローシップ派遣者の受け入れ（筑波大学大学院生1人、6か月）

9. 卒業後の進路

日本語学科一期生の進路の詳細は明らかになっていないが、モスクワ市の小中高校において日本語教員として勤務している卒業生が少数いる。学生は本来、初中等教育機関の日本語教員となることが期待されているが、ロシアでは公務員の給与が低いため、実際に教職に就きたいという学生は多くない。希望する職業としては、通訳・観光ガイド、日本大使館や日本企業への勤務などが挙げられる。

10. その他、課題など

- ・モスクワでは、日本の書籍、教科書、新聞や雑誌の入手が難しい。
- ・大学の授業内に、学生全員がコンピュータやインターネットを使用できる環境がない。
- ・ロシアの大学での言語教育の特徴であるが、日本語学習が「読む」「翻訳」活動を中心としており、「話す」「聞く」授業活動が少ない。
- ・本学科の学生数やクラス数が増えつつあるため、今後、日本語母語話者教員の授業を受けられない学生が増える可能性がある。